

# 別府市教育ICT活用推進計画 — 令和7年度 学校における取組 —

## 【別府市教育委員会基本理念】

- ・自分らしく、竹のように、しなやかに未来へ生きる人
- ・国籍や障がいの有無等に関わらず、他者や多様性を理解・尊重し、互いに支え合う人
- ・“ふるさと”別府のよさを学び、守り、未来の別府の創り手となる人

## 【別府市学校教育指導方針】 「学び、育つこと」を重視した教育へ



主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

## 【別府市教育ICT活用推進計画】

- ・令和の時代のICTを利活用した学び
- ・教職員研修の充実
- ・ICT環境の整備

## 【めざすICT活用の姿】

- ・ICTを活用した授業改善
- ・児童生徒の情報活用能力の向上
- ・ICTを活用した児童生徒と向き合う時間の創出

## 【めざすICT活用の姿】

### (1) ICTを活用した授業改善

- ICTを活用した協働的な学びの創造
- ICTを活用した協働学習の充実
- ICTを活用した適切な評価と支援

### (2) 児童生徒の情報活用能力の向上

- ICTを活用した個別最適な学び（デジタルドリル教材の活用等）
- ICTを活用した取組の収集とその分析
- 児童生徒のICT技能の向上
- 1人1台端末の文具としての使用

### (3) 児童生徒と向き合う時間の創出

- 校務支援システムの活用促進による事務の簡素化
- テクニカルスタッフの積極的な活用
- テストやドリルのICT活用
- 保護者との連絡のICT活用

## 【取組】

### ■ ICTの授業での活用促進

【目的】 ICTを活用した授業をさらに促進するとともに、実践例を収集し広報することで、個々の教職員の授業改善を図る。

- e-ポータル利用等、ICTの活用場面及び活用方法の交流とその浸透
- 授業への導入や発展のためのテクニカルスタッフの積極的活用
- 「ICTやってみた！」フォルダ等を活用したICTの活用事例の収集とその広報
- 基礎・基本の定着のためのデジタルドリル教材の活用の拡大
- 1人1台端末に触れる機会の増進による1人1台端末の文具化の促進

### ■ 教職員研修の充実

【目的】 ICTの効果的な活用に向けて、1人1台端末の活用のための研修を通して、組織的に個々の教職員のスキルアップを図る。

- 教育ICTを率先して取り組む教員を育成するイノベーター研修
- ICTを活用した授業の日常化を推進する年3回以上の校内研修
- 校内研修や各教科部会の授業におけるICT活用の推進
- デジタルシティズンシップ教育に向けた研修と、児童生徒への授業の実施
- 希望者や希望する学校に対する学習支援アプリ活用の研修

### ■ 家庭や地域社会との連携

【目的】 各家庭での活用を促進したり、地域社会との連携を図ったりすることで、ICTの活用と日常化を推進する。

- 家庭学習としての活用や1人1台端末持ち帰りの日常化
- 不登校児童生徒の学習環境の確保
- プログラミング学習や遠隔授業等への地域人材の活用
- 多様な立場からの多様な意見を聞くための条件整備

### ■ ICT環境の整備

【目的】 校務支援システムや連絡ツールtetoru等を活用して教職員事務の軽減を図り、児童生徒と向き合うための時間を生み出す。

- 校務支援システムの活用促進による、教職員事務負担の軽減
- 連絡ツールtetoruや1人1台端末活用等による保護者連絡の簡素化
- ICTを使った職員間の連絡等による会議の削減
- 情報化推進リーダーと情報教育主任及び各校Teams連絡員の仕事分担整理
- その他、ワンプレイスサポート等の相談体制やICT環境整備の増進

# 「授業での活用」、「研修」、「持ち帰りの促進」について

【授業へのICT活用のステップ】 ※個々の教職員の活用度に応じたステージで活用を図り、上のステージを目指す。

## ステージ1 「やってみる」 1人1台端末を授業の中で使ってみる

- 校内研授業や個人研修等の公開授業でICTを活用した授業を積極的に参観したり自ら行ってみたいりする。
- 通常の授業の導入できる場面から導入してみて、その頻度を徐々に増やしていく。
- 授業への導入に際しては、テクニカルスタッフを要請して補助してもらう。
- 校内研修等で活用した授業等の交流を行う。

## ステージ2 「活用する」 1人1台端末を活用した授業を日常化する

- 日常的に、1人1台端末を活用した授業を行う。
- 1時間の授業の中で導入できる場面を増やしていく。
- テクニカルスタッフには、効果的な活用の方法を支援してもらう。
- 校内研修等で、より効果的な活用の仕方を探る。

## ステージ3 「広げる」(イノベーター) 1人1台端末を活用した授業を広げる

- 1時間の授業の中で効果的にICTを活用できる場面を創造し、他の教員へ伝える。
- テクニカルスタッフとより効果的な活用の方法を探る。
- 校内研修等ではICTを活用した実践を交流するとともに、積極的に実践を発信する。

デジタル・シティズンシップ教育の推進

## 【ICTの授業への活用に向けた研修】

- 1人1台端末を活用した授業の普及に向けて、イノベーターを育成する**イノベーター研修**を行う。
- 情報教育主任を中心として、**年3回以上の校内研修**を行う。(授業への活用の仕方、デジタル・シティズンシップ教育のあり方、授業での活用実績の交流、1人1台端末を活用した授業の研究授業等)必要に応じてテクニカルスタッフを招聘する。
- 研究主任を中心として、**各学校の校内研修の授業**に1人1台端末を活用した授業を組み入れ、交流する。
- **各教科部会における研究授業**において1人1台端末を活用した授業を組み入れ、交流する。
- **学習支援アプリの活用についての研修**を、希望者または学校の必要に応じて設定する。

## 【1人1台端末の持ち帰りの促進】

- **情報モラル教育**および**デジタルシティズンシップ教育**について各学校で研修を行った上で授業を行い、端末の安全な使い方を児童生徒に身に付けさせる。
- デジタルドリル「スタディサプリ」「スマイルドリル」の**宿題としての活用**を促進する。(紙のドリルからデジタルドリルへ。)
- 授業の続きや調べ学習など、**授業の内容にかかわる宿題**を、1人1台端末を活用して行えるよう工夫する。
- 長期休業を機会に、全員の持ち帰りをを行う。その際、ZoomやTeams、ロイロノート等を活用し、**児童生徒と連絡を取る**ようにする。
- 2学期以降は持ち帰りの頻度を増やし、毎日の持ち帰りをめざす。
- スタディサプリ・スマイルドリルやL-Gate、ロイロノートの軌跡を保護者に見てもらおう事で、児童生徒の学習の進捗を**家庭と共有**する。
- 1人1台端末を持ち帰るために、教科書等は学校に置き場所を決めて置いておく等の、児童生徒の負担軽減策を工夫する。

自立した学習者の育成